vol.604

mj "高は高才、低は低量、情報はマック"
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2022年1月12日発行ラインナップ
・年頭のご挨拶
・京都「伏見稲荷大社」への初詣

年　頭　の　ご　挨　拶

代表取締役社長　上西　由晃

新年あけましておめでとうございます

はじめに、新型コロナウイルス感染症や自然災害により亡くなられました方々に深く哀悼の誠を捧げますとともに、被害を受けられた方々には心からお見舞いを申し上げます。

さて、皆様方におかれましては、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せる中、ご家族と共にゆっくり過ごされたことと思います。昨年を振り返りますと、一昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、経済や産業が打撃を受け様々な転換を余儀なくされた年でありました。農業分野では、景気低迷の影響を受け農産物価格の低迷、国際的な原料価格高騰に伴う肥料等農業資材費の高騰、　また、農業従事者の高齢化による後継者不足等もあり、食料の安定供給への不安など農業を取巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。一方で、延期や無観客など紆余曲折はありましたが、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、合わせて約200の国から15,000人を超える選手が参加し、パンデミック下においても世界がスポーツを通じて一つになれることを証明した意義ある大会でありました。その後は、幸いにも新型コロナウイルス感染症が落ち着き経済活動も再開され、感染力が強いとされる新たな変異株も見つかり予断は許しませんが、世界は逞しくも着実にwithコロナへと変化し好転の兆しが見てとれます。

今年は60年で一巡する干支では「壬寅（みずのえとら）」に当たります。「壬」は女性のお腹に子供を宿す「妊」の一部であることから「はらむ」「生まれる」という意味です。「寅」はもともと「演」が由来といわれ「人の前に立つ」、演と同じ読みの「延（えん）」から「延ばす・成長する」という意味を持っています。この2つの組み合わせである壬寅には、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」を表しています。コロナ禍により生活様式が大きく変わり、従来型の製品やサービスは存続の脅威にさらされる共に多くの新たな製品やサービスを生み出されています。こうした変化をチャンスと捉え、社員一同たゆみない努力を継続する所存ですので引き続きご支援賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。最後に、本年が皆様とご家族にとって実り多く健康で幸せな一年となりますよう心から祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

京都　「伏見稲荷大社」　への初詣

皆様、あけましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。本年も宜しくお願い致します。新春にふさわしい話題として、京都市伏見区に位置する「伏見稲荷大社」をご紹介致します。

伏見稲荷大社は地元の方々に「お稲荷さん」という愛称で親しまれており、全国で3万社を超える稲荷神社の総本宮です。1300年の歴史を持ち、五穀豊穣、商売繁昌、家内安全、諸願成就の神様として祀られています。伏見稲荷大社の最大の見どころは、こちらの「千本鳥居」です。（右写真）朱塗りの鳥居がズラリと並んでいます。これは江戸時代以降に、願いごとが「通るように」または「通った」というお礼の意味から始まったと言われています。千本鳥居の数についてこんな歴史があります。江戸時代、江戸で商売を営んでいた呉服屋・越後屋の「三井八郎右衛門高富」が業績不振に陥

（次ページへ続く）

（前ページより続く）
り、商売繁盛を願って伏見稲荷の江戸の分社「三囲稲荷社（みめぐりいなり）」へ熱心に参拝した結果、後世に名を遺すまでに商売が大繁盛しました。この話が江戸から日本全国へ広まり稲荷信仰に火が付き、日本全国の商売人がお稲荷さんへと参拝をはじめ、鳥居を奉納する者も現れました。そしてこの伏見稲荷大社にも鳥居が奉納されるようになり、現在の千本鳥居の数は「850本前後」になったと言われています。そんな千本鳥居を抜けた場所にある「奥社奉拝所」には「おもかる石（重軽石）」という石灯篭があります。（写真上）この「おもかる石」は持ち上げられるようになっており、持ち上げた時に石の重さが「軽い」と感じれば「願いが叶う日が近い」「重い」と感じれば「願いが叶う日が遠い」などと云われています。筆者も何度か持ち上げたことがあるのですが残念ながら「軽い」と感じたことは未だにありません。皆様も是非、「おもかる石」を持ち上げて自分の願いが叶う日が近いのか確認してみてください。

さらに、奥社奉拝所にはもう一つユニークなものがあります。それは狐の顔の形をした絵馬です。参拝に訪れ、絵馬に自分の願いを書く、という経験をされた方は多いのではないでしょうか。ですが伏見稲荷大社の絵馬は一味違います。このように「狐の顔」を描くのです。（写真下）参拝者がそれぞれ思い思いに狐の顔を描いており、可愛らしい顔から少し笑ってしまう面白い顔もあり、見ているだけで存分に楽しめます。もちろん、狐の顔の裏側に願いを書くこともできるので、願いを書くだけでなく狐の顔を描くのも楽しむことも出来ます。そんな伏見稲荷大社の背後には稲荷山がそびえ立ち、約1時間～2時間ほどで登山することができる「お山めぐり」というものがあります。このお山めぐりは奥社に向かう参道「千本鳥居」を最初にくぐり抜けてその後は石段を登って稲荷山を一周します。その全長は約4キロメートルです。石段や坂道を登り下りするため、初心者には少し厳しい山で予想以上の厳しさに挫折して途中で帰る方も多くいらっしゃいました。ですがただ単に登山を黙々と楽しむのではなく、ご利益のあるお社をお参りしたり、所々にあるお休み処でお茶菓子を楽しみお土産を買ったりと、色々な楽しみ方があるのも伏見稲荷大社の魅力の一つではないかと思われます。そして沢山の石段を登り切った先には四ツ辻という京都市南部が見渡せる絶景スポットが待っています。そこにはちょっとした広場があり「仁志むら亭」という俳優の西村和彦さんのご実家が経営されている食事処があります。うどんなどの食事や飲み物など、参拝者をもてなす昔ながらのお茶屋さんで、今は西村和彦さんのお兄様がお店をやられているそうです。

伏見稲荷大社にはほかにも魅力的なお茶屋さんがあります。開放的な入り口と赤い野点傘が目印の「伏見稲荷参道茶屋」という甘味茶屋さんです。ここでは出来立ての甘酒を飲むことができます。多くの参拝者がこちらを訪れ熱い甘酒を口にし、「ふぅ」と一息ついているのを見ると、なんだか温かい気持ちになります。熱い甘酒に生姜を加えて飲むこのひとときがたまらなく幸せで、毎年ここに来ると新たな一年が始まったなと実感します。

是非、皆様も京都を訪れた際には伏見稲荷大社に足を運んでみてはいかがでしょうか。素敵なお茶屋さんやユニークな体験、絶景があなたを待っています。皆様にとって幸多き一年になりますように。（大阪支店）

お正月はいかがお過ごしでしたでしょうか。久しぶりの帰省をされた方も多かったのではないかと思います。皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。本年も当紙をどうぞ宜しくお願い致します。

編集事務局 ：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp